

# 「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア（中学校第2学年）

## 1 めざす子どもの姿

### (1) 身に付けさせたい言語の力

立場・根拠を明らかにし、構成を工夫した、分かりやすい意見文を書く力〈第2学年「B書くこと」(1)アイ〉

### (2) 「身に付けさせたい言語の力」に関する子どもの実態

日常生活の中で、感想等を表現することはあっても、自分の意見をはっきりと相手に伝えることは少なく、苦手である。そこには避けたいという思いやそのための能力の不足がある。だからこそ、自分の立場や意見を分かりやすく的確に伝える力を身に付けさせたい。

### (3) 年間指導計画上の位置付け

これまで、目的や相手に応じて、事実や事柄を効果的に伝えるために説明の仕方を工夫するという学習目標で「説明の仕方を工夫しよう」に取り組んだ。また、「モアイは語る―地球の未来―」では、根拠となる事実、それに基づく筆者の主張、文章の構成をとらえる学習を行った。

## 2 単元(題材)名

第2学年「新聞に投書する意見文を書こう～立場と根拠を明確にして書こう～『意見文を書く』」

＊使用した指導例…「新聞への投書『意見文を書く』」

〔滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会授業改善・調査部会(国語部会)作成〕

## 3 題材観

「意見」を述べる際には、自分の考えを、理由や根拠に基づいて分かりやすく筋道立てて読み手や聞き手に伝えることが大切である。それができれば、読み手や聞き手が、理解し納得して、考えを変えたり行動を起こしたりすることも可能になるだろう。

この題材では、「紙の辞書・電子辞書」という身近な問題を取り上げ、意見文を書く手順を例示している。内容的にも、生徒が自分なりの意見を持ちつつ文章にしていく手順を理解しやすいと考えられる。取組では、新聞に投書し読んでもらうことを意識して、分かりやすく説得力のある文章づくりをさせたい。

指導例「新聞への投書『意見文を書く』」を使うことで、新聞の投書欄の文章がどのようなもので、この学習でどういったものを書いていくのかをとらえさせ、これからの学習活動を示すことができると考える。

## 4 学習目標

- ・課題について自分の立場や根拠を明確にしながらか自分の意見を文章にまとめる活動に主体的に取り組むことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・自分の立場および伝えたい事実や事柄を明確にして、構成を工夫しながら意見文を書くことができる。(書く能力)
- ・文の中の成分の順序や照応、文の構成などについて考えることができる。(言語についての知識・理解・技能)

5 評価規準 [ ]は関連する指導事項

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○設定したテーマに対する自分の立場を明確にして意見文を書こうとしている。	○自分の立場、事実や事柄を明確にし、相手意識、目的意識をもって、反論を予想しながら、文章の構成を工夫している。〔書くこと(ア)(イ)〕	○主語・述語の使い方、接続詞の使い方、副詞の呼応などに注意して文章を書いている。〔伝国イ(ウ)〕

6 学習計画(全5時間) [ ]は関連する指導事項

次	時間	主な学習活動	評価規準、評価方法(☆)
一	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な意見文である新聞の投書欄の文章を読み、自分なりの考えをもつ。</li> <li>投書に対する意見文とその書き直しの意見文を比較しながら読み、より分かりやすい文章についてとらえる。</li> <li>投書に対して自分の意見文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>二つの文を比較し、評価・批評しながら読んでいる。</li> <li>条件に従って、投書に対する自分の意見文を書いている。〔書くこと(ウ)〕</li> </ul> ☆ワークシートによる評価
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに沿って、自分の立場を決める。</li> <li>書く材料として、立場を支える根拠となる事実や例を、体験や知識などから集め書き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに対する自分の立場を考えている。〔書くこと(ア)〕</li> <li>根拠となる事実や例を見つけ、書いている。〔書くこと(ア)〕</li> </ul> ☆ワークシートによる評価
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立場や選び出した根拠に対する反論を予想し、それに対する意見を考える。</li> <li>集めた材料を、文章の構成を考えながら順番に並べ、意見文(下書き)を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反論を想定し、それに対する意見を考えている。〔書くこと(ア)〕</li> <li>立場、根拠、反論に対する意見文を、読み手に分かりやすく構成し、下書きを書いている。〔書くこと(イ)(ウ)〕</li> <li>主語・述語の使い方、接続詞の使い方、副詞の呼応などに注意して文章を書いている。〔伝国イ(ウ)〕</li> </ul> ☆下書きによる評価
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた文章を、「推敲の観点」(語句や文の使い方、段落相互の関係など)に基づいて推敲する。</li> <li>推敲を踏まえて、より分かりやすく、説得力のある意見文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切に推敲し、より分かりやすい文章にしている。〔書くこと(エ)〕</li> <li>説得力のある分かりやすい意見文を書いている。〔書くこと(ウ)〕</li> </ul> ☆意見文による評価

三	5	・書いた意見文を読み合い、立場の明確さ、根拠の適切さなどについて交流する。	・班の人の意見文について、「評価の観点」に従って適切に評価している。 〔書くこと(オ)〕 ・交流で得たことを今後に生かそうとしている。 〔書くこと(オ)〕
---	---	---------------------------------------	--

## 7 本時の学習目標

- ・日常の言語生活に関心を持ち、言語生活のよりよい向上に役立てることができる。
- ・複数の文章を比較し、評価・批評しながら読むことができる。
- ・自分の考えを、その根拠を明らかにしながら書くことができる。

## 8 本時の学習過程 ( )は評価項目

過程	学習内容および学習活動		指導上の留意点、評価(◎)
	学習内容	学習活動	
導入	1 本時の目標を確かめる。	①身近にある意見文について知る。	・自分たちの周りにある意見文について考えさせる。
展開	2 日常生活の中の意見文を読み、自分の意見をもつ。	②新聞の投書欄に載せられていた文章【A】を読む。 ③M子さんの意見をとらえる。 ④読後の感想を班で交流する。	・M子さんの立場も確認させる。 ・よく似た経験や日常の携帯電話の使い方などについて振り返らせる。 ◎進んで学習活動に取り組もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
	3 M子さんの投書に対して石田さんが初めに書いた意見文【B】と石田さんが書き直した意見文【C】とを読み比べ、違いを読み取る。	⑤【B】と【C】とを読み比べ、石田さんが、どの部分を、なぜ書き改めたかということについて発表し合う。	・次の5点に気付かせる。 *漢字の間違いが2か所 *文末に「…思う」という表現が多い *「僕は」という表現が多い *接続詞などが少ないので、文と文との関係が分かりにくい *一段落で書かれており、内容ごとのまとまりに分けて構成していない ・【C】の文章(石田さんが書き直した意見文)について、構成面でのよい点を確認させる。 ◎【B】と【C】の文章を比較しながら評価・批評している。 (書く能力、言語についての知識・理解・技能)

	4 自分の意見を文章にまとめる。	⑥新聞の投書欄に載せられていた文章【A】に対する自分なりの意見を条件に従って書きまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【C】の文章の書き方を参考にしながら、文字数や段落構成の条件を確かめ、自分の意見を書かせる。文字数については、生徒の実態に合わせて調整する。</li> <li>◎条件に従って書きまとめている。</li> <li>(書く能力、言語についての知識・理解・技能)</li> </ul>
整理	5 次時からの学習内容を知る。	⑦意見文を書くときの立場、根拠、構成の重要性を確認し、次時からの意見文を書く活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に新聞の投書欄に投書することを目的に学習していくことを伝え、社会の様々な課題に対して問題意識を高め、書くことへの意欲をもたせる。</li> </ul>